

「ガラケー」という携帯電話の種類として一躍知られることになった「ガラパゴス化」

## 「ガラパゴス化」

この語は、事実上、本多勝一・朝日新聞編集委員(当時)との合作。1998年12月12日 木佐の講演「ドイツの裁判官と日本の裁判官」を講演会場で聞いた本多氏が、「ガラパゴス現象」『週刊金曜日』251号(1999年)7頁の文中で「**ガラパゴス化**」と表現した。

集会の画像, 本多の記事は, ⇒ [リンク](#)

<http://tabushi.cafe.coocan.jp/990122HondaKatsuichi-Galapagos.pdf>

他方, 吉川尚宏『ガラパゴス化する日本 このまま日本は衰退するのか』(講談社現代新書, 初版2010年1月刊)が, その初刷において, ウェブ検索さえすることもなく, 吉川の同僚・北俊一が2006年に「ガラパゴス諸島なのか」と言ったのが「最初」であり, 吉川自身が「ガラパゴス化現象」として「プロジェクトの中で明確に定義した。」と述べていた(「はじめに」3頁)。

吉川は, 木佐の抗議により, 初版第3刷(同年5月24日刊行)の「はしがき」で, 事実を認めたが, それ以上の謝罪等は一切なかった。IT専門家でも, この程度の調査能力か, と腹立たしい思いであった。

<http://tabushi.cocolog-nifty.com/platz/2010/05/post-7a8f.html>

ちなみに, シャープ株式会社は, 2010年7月20日にGALAPAGOS(ガラパゴス)を, 電子ブックリーダー(タブレット)と電子書籍配信サービスの名称とし, スマートフォンのブランド名としても使用開始を発表した。

ガラパゴス化する日本  
吉川尚宏

2010年代の最重要キーワード

このまま日本は  
衰退するのか？

携帯電話・電子マネー・大学・東京・若者…



講談社現代新書

2010年2月の初版・初刷カバー（表紙）

## はじめに

二〇〇七年春、筆者の当時の勤務先であった野村総合研究所において、私と高田伸朗氏とがリーダーとなって、「二〇一五年の日本」について社内自主研究を行うチーム「プロジェクト2015」を立ち上げた。二〇一五年に向け、日本が克服すべき課題は何なのかと研究テーマのモチーフについて思いをめぐらしていたところ、出会ったキーワードが「ガラパゴス化」であった。

もともと、このガラパゴス化という言葉は、筆者の同僚であった北俊一氏が「日本は本当にケータイ先進国なのかガラパゴス諸島なのか」という問題提起を行った論文（野村総合研究所『知的資産創造』二〇〇六年一月号）で使ったのが最初である。北氏の指摘は携帯電話産業だけに閉じた話であったが、彼やプロジェクト2015のメンバーとの議論の中で、どうやらこのガラパゴス化は携帯電話にとどまらないで、ICT（Information Communication Technology——情報通信技術）産業全般、あるいは広く日本の産業分野に及んでくる現象であることに気が付き、日本が独自進化して世界から逆にかけて離れてしまう現象

2010年2月20日発行 初刷



当職の抗議に基づいて、第3刷において、お詫びの言葉もなく、黙って「修正」

## はじめに

二〇〇七年春、筆者の当時の勤務先であった野村総合研究所において、私と高田伸朗氏とがリーダーとなって、「二〇一五年の日本」について社内自主研究を行うチーム「プロジェクト2015」を立ち上げた。二〇一五年に向け、日本が克服すべき課題は何なのかと研究テーマのモチーフについて思いをめぐらしていたところ、出会ったキーワードが「ガラパゴス化」であった。

「ガラパゴス化」という言葉は、ジャーナリストの本多勝一氏が一九九九年初頭に『週刊金曜日』で最初に使ったものである。九州大学法学研究院（当時、北海道大学）の木佐茂男教授が日本の司法制度の遅れを指摘するために九八年一二月の講演で使った「ガラパゴス現象」を紹介する中で日本の政治・社会体制全体が進化を遂げない様を表すため用いたものである。

携帯電話分野でのガラパゴス化という言葉は、筆者の同僚であった北俊一氏が使っている（野村総合研究所『知的資産創造』二〇〇六年一月号）。北氏の指摘は携帯電話分野だけに閉

2010年5月24日発行 第3刷

# 「第3刷」の「奥付」

ベストセラーになったので、短期間に第3刷。

初刷と第2刷を買った人は、「はしがき」を信じていると思われる。

講談社現代新書 2038

## ガラパゴス化する日本

二〇一〇年二月二〇日第一刷発行 二〇一〇年五月二四日第三刷発行

著者 吉川尚宏 © Naohiro Yoshikawa 2010

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二二二 郵便番号 一〇二一八〇〇一

電話 出版部 〇三―五三九五―三五二一

販売部 〇三―五三九五―五八一七

業務部 〇三―五三九五―三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 凸版印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan



㊞ (日本複写権センター委託出版物)

本書の無断複写 (コピー) は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

複写を希望される場合は、日本複写権センター (〇三―三四〇―一三三八二) にご連絡ください。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。